

特集 国際文化交流の推進

6 平成一二年 年頭の所感◇文部大臣中曾根弘文

巻頭言 14 国際文化交流の推進 磯村尚徳

てい談 16 二千年紀の国際文化交流

を考へる (出席者 榎 泰邦／永井多恵子／林田英樹)

論文 26 国際文化交流における美術館の役割 高階秀爾

エッセイ 30 人は民族に還る 横井 茂

32 ケルンにおける東大寺展—D.R.アデーレ・シユロムス

事例紹介① 34 静岡発「希望への貌 (CREATING HOPE)」
「第2回シアター・オリニピックス」開催

事例紹介② 36 藤野 アーティスト・イン・レジデンス 第2回シアター・オリニピックス実行委員会
多様な価値創造に向けたネットワークの創出に向けて 神奈川県藤野町

事例紹介③ 38 敦煌文化財の保存修復に関する日中共同研究 東京国立文化財研究所

事例紹介④ 40 アジア太平洋地域文化遺産保護協力活動の 国内拠点奈良に開設 財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所

見聞記 42 山形県高校生代表訪中団 宝崎幸雄

ハルビン市師範学校との交流会について

解説 44 解説 文化庁長官官房総務課文化政策室

44 文化庁の国際交流・協力に関する施策

48 国際交流基金による交流プログラム

51 日韓文化交流会議について

1 記念館めぐり●ゆかりの地を訪ねて

稲沢市荻須記念美術館 (愛知県)

4 この道を行く

万世大路大滝宿跡

表2 名作シリーズ

無垢の笑い

表3 文化財紹介

特別史跡平城宮跡に
再現された東院庭園

カラー

12 私と教育、私とつけ 川口和久

52 焦点—文教施策

64 中教審ニュース

70 文部省Q & A

72 都道府県発

●教育・学術・文化・スポーツニュース

茨城県、群馬県桐生市、
神奈川県小田原市、鹿児島県

74 めざせソンドー五輪

自転車競技

76 レッツ トライノ

国立三瓶青年の家

78 海外教育ニュース

80 刊行物紹介

82 インフォメーション

83 鑑賞席

84 編集後記

日韓文化交流会議について

日韓文化交流会議は、平成一〇年一〇月の金大中（キム・デジュン）大統領の訪日に際し、両国首脳で合意、発表された「共同宣言―二一世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の精神を踏まえ、これまで醸成されてきた両国間の友好協力の雰囲気をさらに実質的、かつ具体的に高めるという観点から平成一一年三月にソウルで開催された日韓首脳会談の際に、民間レベルの「日韓文化交流会議」を設置することで原則合意されたものである。

これに伴い、日韓両国の文化・芸術界の方々を中心として、両国の「日韓文化交流会議」メンバーがそれぞれ次のおり構成されることになり、平成一一年六月一八日正式に発足した。

「日韓文化交流会議」は、毎年一回全体会議を開催する計画であり、また、同会議の効果的運営と全体会議の準備、議題設定などのために、座長を含む少人数の会議を随時開催する方針である。

第一回全体会議は、九月二二日にソウルで開催され、今後の日韓文化交流の活性化のため

の活発な討議が行われた。日韓文化交流会議は、日韓両国の国民レベルの全般的な文化・芸術交流促進について幅広く協議するものであり、同時に日韓両国の

文化交流の増進に積極的な役割を果たす場として、今後両国間の国民・文化交流を幅広く推進させる上で重要な役割を果たしていくことが期待されている。



日韓文化交流会議メンバー

●日本側メンバー（五十音順、敬称略 ※は日本側座長）

- 饗庭孝典（杏林大学社会科学部客員教授）
- 小此木政夫（慶應義塾大学教授）
- 千宗室（裏千家家元）
- 田中優子（法政大学教授）
- 芳賀徹（京都造形大学学長、東京大学名誉教授）
- 平山郁夫（日本画家）
- 広中平祐（山口大学学長）
- 松尾修吾（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役会長）

※三浦朱門（作家）

- 水谷幸正（浄土宗総合研究所所長）

●韓国側メンバー（韓国側指定順、敬称略 ※は韓国側座長）

- ※池明観（チ・ミョンガン）（翰林大学日本学研究所長）
- 崔相龍（チェ・サンヨン）（高麗大学アジア問題研究所長、高麗大学政治外交学科教授）
- 李清俊（イ・チョンジュン）（順天大学碩座教授、『西便制』著者）
- 金容雲（キム・ヨンウン）（漢陽大学名誉教授、数学問題研究所長）
- 高銀（コ・ウン）（詩人）
- 姜萬吉（カン・マンギル）（前高麗大学韓国史学科教授）
- 柳鈞（リュ・ギョン）（韓国放送公社（KBS）解説主幹）
- 朴性根（パク・ソンウン）（梨花女子大学大学院美術史学科教授）
- 林英雄（イム・ヨンウン）（劇団「サヌリム」代表）
- 張明秀（チャン・ミョンス）（韓国日報主筆）

中央教育審議会 初等中等教育と 高等教育との 接続の改善

「初等中等教育と高等教育との接続の改善」について」答申

●巻頭言

初等中等教育と高等教育との接続の改善に向けて——中曾根弘文

●答申に当たって

「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申に当たって——根本二郎

●座談会

初等中等教育と高等教育との接続の改善について——木村 孟／安西祐一郎／大田弘子

●論文

岡田修二／舘 昭／本間政雄
安原義仁／矢野眞和
川口順子

●エッセイ

事例紹介——神奈川県立麻溝台高等学校 ほか

◎文部時報2月臨時増刊号

中央教育審議会答申

●初等中等教育と高等教育との接続の改善について

2月下旬刊行予定

編集後記

▽新年あけましておめでとうございます。西暦二〇〇〇年という節目の年を迎え、いつもとは違った気持ちで新年を迎えられた方も多いのではないのでしょうか。二〇世紀最後の年、読者の皆様にとってよい一年となりますよう願っております。

二〇〇〇年といえは避けて通れないわゆる二〇〇〇年問題がありました。本誌編集部と文部省のコンピュータ二〇〇〇年問題対策室とは同じ部屋にあり、年末が近づくにつれその緊張が高まる様子を間近で見ました。文部省だけでなく各省庁も不測の事態に備え、年末年始は担当職員が泊まり込むなどの体制をとっていたこともあり、霞が関界内は例年の年末年始とは違った風景になっていったようです。

▽さて、二〇〇〇年最初の特集は「国際文化交流の推進」です。我が国が二一世紀の新しい文化を創造し、文化による国際貢献を果たしていく上

で、国際文化交流の推進は不可欠のもの。そこで特集は、我が国文化の各分野における国際交流の現状を紹介するとともに、その推進にあたる行政の役割などを紹介する内容となっておりますので御一読ください。

▽読者の方から「記念館めぐり」で紹介してほしい記念館の御要望をいただきました。近いうちにぜひ紹介したいと考えております。御要望にはできるだけおこたえしていきたいと思っておりますので、巻末のアンケートはがきでお送りください。

最後になりましたが、本誌にとっても充実した一年となるようがんばってまいりますので、今年もよろしくお願いいたします。(K・M)

おわびと訂正 平成二十一年二月五頁中「鈴木明憲」は「鈴木昭憲」、九頁下段中「ロバート・ハッケンス」は「ロバート・ハッチンス」の誤りでしたので、訂正しおわび申し上げます。

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んだ感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定

①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

●文章を一部手直しさせていただくことがあります。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-2

文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

電子メールでも受け付けております。

●「文部時報読者アンケート」

文部時報読者アンケートは添付のはがきの

かに電子メールでも受け付けております。

宛先「jiho@monbu.go.jp」

コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆に紹介するため、インターネットホームページを利用して情報を提供しています。また、子どもホームページ試行版を設け、情報を提供しています。

ホームページアドレス:

http://www.monbu.go.jp/(半角入力)

子どもホームページアドレス:

http://www.monbu.go.jp/kodomohp/index.htm

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666(営業部)

URL http://www.gyosei.co.jp

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成12年1月10日印刷

平成12年1月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)

年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。